

■児童・生徒の学力の状況

○学力調査の結果は概ね良好である。  
 ○国語科では、人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現したりすることに課題がある。  
 ○算数科では円グラフの特徴を理解し、割合を読み取ることに課題がある。  
 ○自分の考えを表出したり、決められた時数で考えを書き表したりすることを苦手としている傾向がある。

■授業革新推進に向けた、指導上の課題  
 ※「読み解く力」の育成を踏まえて

○児童一人ひとりの考えを交流する場面で対話を通して互いを高め合い、深い学びにつなげる指導を行う必要がある。  
 ○本時のめあてが達成できたかを振り返り、学んだことを言語化する時間を確保する。  
 ○文章をじっくり読んで理解し、写真や図、グラフなどと結びつけて考える時間を確保する。

■学校経営方針より（学力向上に関わる内容から）

○「板橋区授業スタンダード」に基づいた授業を実施し、学習内容の確かな定着を図るとともに、一人一台端末を活用して個に応じた指導の充実を図る。  
 ○ONIE教育を核とし、社会に対する広い視野や多様な考え方を育むとともに、「読み解く力」を育成する。  
 ○学びのエリア（赤三中・紅梅小・赤塚小・赤塚新町小・本校）内で定めた基礎基本（挨拶・時間を守る・考えを伝える話を最後まで聞く）を徹底し、学習規律を確立する。  
 ○教科担任制を3年生から実施し、多くの目で子どもを育てる指導体制を構築することで、授業の充実と児童理解の深化を図る。

■授業革新推進に向けての具体的な方策

視点1	視点2	視点3
板橋区授業スタンダードの徹底	読み解く力の育成	総合的な学習の時間との連携
○各教科等の授業において、「学習課題・めあての設定→自力解決→集団解決→まとめ・振り返り」等の学習の流れを定着させる。	○ONIEタイムを定期的実施し新聞を読み、理解し、疑問に思ったり考えたりしたことを友達に伝える活動を通して読み解く力を育成する。	○学びのエリアにおける小・小連携ならびに小・中連携によるSDGs交流会を行い、総合的な学習の時間を中心とした探究的な学習の充実を図る。

■いたばし学び支援プラン2025の実現に向けた具体的な取組

小中一貫教育の推進 板橋のiカリキュラムの活用	カリキュラム・マネジメントの推進	ICT環境の適切な維持と活用 個別最適な学び・協働的な学びの実現
○地域の教材（区立美術館、区立郷土資料館、区立赤塚植物園等）を活用し、各教科等と関連させて学習する。 ○SDGsの視点を踏まえ、総合的な学習の時間を中心に環境との関わりの学習を行う。 ○キャリアパスポートを活用し、自分自身を見つめ、自らの生き方等について考える機会を設ける。	○総合的な学習の時間では、他教科の学習内容と関連させながら、探究や体験を通じた課題発見・解決的な学習を行う。 ○友達や地域の方、多様な人々と交流することで、地域社会や自然、暮らしなどに関心をもてるようにする。 ○体験活動を充実させ、学習内容に関心をもったり、実感を伴った理解をできるようにする。	○全ての教科・領域等の特質に応じて、適切な場面で一人一台端末を活用した学習を行う。 ○使用するアプリ等の特性を生かし、協働学習で意見交換したり、個別学習で調べ学習やドリル学習等を行う。 ○板書を撮影し、クラスルームに掲載することで授業を振り返り、わからない箇所について自分のペースで確認できるようにする。